

平成20年度秋期 プロジェクトマネージャ試験分析速報

2008.10.20 (株)アイテック 情報技術教育研究部

1. 試験全体講評

問題の難易度については、午前、午後、午後 いずれについても標準的な難易度であり、プロジェクトマネージャとしての知識や能力を試すのに必要十分なものであると考えられます。従来傾向を踏襲して、偏った出題にならないような工夫が見られています。

午前では新規テーマの出題がやや難しかったこと、午後 では、必然的なストーリー構成で問題記述のボリュームを持たせ、設問数を多くして設問一つ当たりの解答字数を短くしていること、午後 においては、偏った出題や特定の・限定的な出題がなかったことから、全体として真の職務遂行能力の有無を試そうという趣旨が伺えます。

2. 午前試験講評

全体的に基本的な知識を問う問題でした。従来から過去問題の再出題が多く見られていますが本年もその傾向が見られます。おおむね予想された範囲内の問題で比較的容易に取り組むことができたのではないかと思います。

新規の問題としては、「リポジトリのチェックイン、チェックアウト」、「Web コンテンツの情報アクセシビリティ」、「JIS Q 27002:2006」、「ソフトウェア制作費の無形固定資産への計上」などが挙げられます。いずれも用語の知識の十分な理解がないと解答が困難だったと思われます。これらの問題は、過去問題の再出題として今後また出題される可能性は高いと思います。

また、今回も計算問題が比較的多かったことが特徴として挙げられます。電卓を使わずに効率的に解答するのは困難だったと思われます。

以上より、内容的には難易度は普通と思われますが、計算問題の負荷によって、解答に時間がかかった受験生が多かったものと思われます。

3. 午後 試験講評

4問中3問を解答しなければならない形式は従来同様です。90分で3問解くのは時間的に厳しく、どのように効率よく解答するかが午後 問題の鍵となります。今回は問1は進捗管理(EVM)、問2は新規機能の追加開発、問3は保守サービス管理システムの開発プロジェクト、問4はシステムの移行に関する出題でした。今回の問1は過去にも出題されたアードバリューマネジメント(EVM)の問題で、これは身近であるかどうかで難易度が変わってくるものと思われます。問1を選択するかどうか大きな取組み方の分岐になったと思われます。問1は異彩を放っていますが、問題間の難易度格差という点ではあまり差がなく、午後 としては適当な内容といえるでしょう。

各問題について出題内容を見ていきます。

#### 問 1 進捗管理 (EVM)

進捗管理として EVM を題材にした問題です。用語はすべて解説されていて、事前知識がなくても解答できるように配慮されていますが、EVM を扱った経験がないと考えるににくい設問が見られます。この点を考慮して、やや難しいと考えます。

#### 問 2 新規機能の追加開発

保険会社の定期案件と新規案件の取り扱いについての問題でした。保険業界の詳しい知識は不要で、問題に書かれている記述からほとんど解答できます。開発スケジュール図をしっかりと理解することがキーとなります。難易度は普通と思われます。

#### 問 3 保守サービス管理システムの開発プロジェクト

保守サービス管理システムの開発に関して利用部門の支援や関わりについて問う問題です。この問題は、文章が中心で文脈をしっかりと読み取ることがポイントとなります。開発機能の優先度や開発順序などについてオーソドックスな出題で、さほど難しくなく、全体として難易度は普通と考えます。

#### 問 4 システムの移行

システムの移行に伴う修正開発プロジェクトに関する問題です。プロジェクト管理の知識を問題文の状況において裏付けて解答していけば比較的容易に解答できます。難易度としてはやや易しいと考えます。

問 1 は、EVM の知識・経験の影響という点でやや難しいと評価しましたが、内容そのものの難解さは感じられず、全体の問題間格差はほとんどないと思われます。

#### 4. 午後 試験講評

午後は、従来通り 3 問中 1 問を選択する論述試験です。今回は昨年みられたようなより具体的な状況を特定して PM としての判断能力を問う出題は見られず、一般性の高い出題となっています。問 1 は利用部門との関わり方に焦点を当てて経験や考えを問うもので、工程や管理内容を問わず幅広く題材を考えることができたと思います。問 2 は、プロジェクトの問題解決について問う一般性の高い問題でした。プロジェクトの QCD どの側面でも論述可能で、題材とのマッチングも比較的容易だったのではないかと思います。問 3 はプロジェクトの評価に関する問題でこれまた特定のではなく自由度の高い問題でした。ただし、実際にプロジェクトの評価の経験がないと少し難しかったと思います。難易度としてはどの問題も自由度が高く、やや易しく書きやすいものと考えます。ただし問 3 は経験があるかどうかの書きやすさに影響があると思われ、相対的にやや取り組みにくかったと思われれます。

問1 情報システム開発プロジェクトにおける利用部門の参加について

本問は「組織マネジメント」に関する問題です。ステークホルダあるいはプロジェクトメンバとしての利用部門との関係維持、折衝能力をアピールする問題です。問題文の説明は非常に身近に感じられ、多くの人が共感できるものと考えられ、恐らく多くの人がこの問題を選択したものと思われます。しかし、問題の状況や対策をていねいに述べないと高評価につながりません。書きやすいけれども報告的になりやすいので、よりていねいな表現を心がける必要があります。

問2 情報システム開発における問題解決について

本問は、プロジェクトの実行段階にフォーカスした問題で、問題の兆候をとらえ大きな問題になる前に対処する活動を問うものです。最近の問題は、プロジェクトの計画段階と実行段階をミックスしたものがほとんどですが、この問題はとにかく実行段階についての判断や考えを問うものです。この問題も自由度が高く選択しやすいですが、実施した経緯の報告に終始してしまう恐れがあります。論点を明確にして、考え・主張を展開していくことを特に心がけて論述する必要があります。

問3 情報システム開発プロジェクトの完了時の評価について

本問はプロジェクトの完了時の評価に関する問題です。この問題も一般的な管理プロセスを説明した問題文となっていて、題材としての制約は少ないものと思われます。ただし、プロジェクトマネージャとしてのプロジェクト評価を行った経験がない人は、論点や主張の整理が難しく、やや書きにくいものと考えられます。3問の中では最も選択者が少なかったのではないかと思います。

以上